

CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロジスクエア松戸	階数	地上4F 地下0F
建設地	千葉県松戸市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条の地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年7月28日
敷地面積	7,645 m ²	作成者	株式会社イズミシステム設計
建築面積	4,162 m ²	確認日	2022年7月28日
延床面積	15,642 m ²	確認者	鈴与建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.6
4(教育)	2.0
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	1.6
7(エネルギー)	2.1
8(経済・雇用)	2.3
9(イノベーション)	2.1
11(都市)	2.3
12(生産・消費)	2.2
13(気候変動)	1.3
15(陸上資源)	2.1
17(実施手段)	2.1

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.2

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境 まちなみ 地域性・

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合	・高効率な機器や節水器具を積極的に採用し、環境負荷の低減に配慮している。	
その他	-	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・評価対象外	・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・高い階高を確保し、空間のゆとりを配慮している。	・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・燃焼機器を設置しないことで、温熱環境の向上に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。 ・LED照明等の高効率な設備機器を導入している。	・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・躯体と仕上材が容易に分別可能な構造とし、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	・燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。 ・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		
		Q 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル	—	—	—	—	—	—		
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能	—	—	—	—	—	—		
2 界壁遮音性能	—	—	—	—	—	—		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	—	—	—	—	—		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—	—	—	—		
1.3 吸音	—	—	—	—	—	—		
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温	—	—	—	—	—	—		
2 外皮性能	—	—	—	—	—	—		
3 ゾーン別制御性	—	—	—	—	—	—		
2.2 湿度制御	—	—	—	—	—	—		
2.3 空調方式	—	—	—	—	—	—		
3 光・視環境								
3.1 屋光利用								
1 屋光率	—	—	—	—	—	—		
2 方位別開口	—	—	—	—	—	—		
3 屋光利用設備	—	—	—	—	—	—		
3.2 グレア対策								
1 屋光制御	—	—	—	—	—	—		
3.3 照度	—	—	—	—	—	—		
3.4 照明制御	—	—	—	—	—	—		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質	—	—	—	—	—	—		
4.2 換気								
1 換気量	—	—	—	—	—	—		
2 自然換気性能	—	—	—	—	—	—		
3 取り入れ外気への配慮	—	—	—	—	—	—		
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視	—	—	—	—	—	—		
2 喫煙の制御	—	—	—	—	—	—		
Q2 サービス性能		—	0.43	—	—	4.2		
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性	—	—	—	—	—	—		
2 高度情報通信設備対応	—	—	—	—	—	—		
3 バリアフリー計画	—	—	—	—	—	—		
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観	—	—	—	—	—	—		
2 リフレッシュスペース	—	—	—	—	—	—		
3 内装計画	—	—	—	—	—	—		
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計	—	—	—	—	—	—		
2 維持管理用機能の確保	—	—	—	—	—	—		
2 耐用性・信頼性		4.1	0.50	—	—	4.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50	—	—			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。	5.0	0.80	—	—			
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—			
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	—	—			
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20	—	—			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属断熱サンドイッチパネル	5.0	0.20	—	—			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	浸透性コンクリート表面強化材塗	5.0	0.10	—	—			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VB・PP、排水:VP・TMP、冷媒:銅管	5.0	0.20	—	—			
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	—	—			
2.4 信頼性		3.0	0.20	—	—			
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—			
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	—	—			
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—			
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	—	—			
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20	—	—			

3	対応性・更新性		4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	最低階高6.2m	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.1未満	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	床・架構・地震用の荷重の割増し50%以上	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	配管配線により、仕上材を痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	ケーブルラック方式により、仕上材を痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.8
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEIm=0.73	5.0	0.63	-	-	5.0
4	効率的運用		2.0	0.25	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	自動水栓・節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.1	0.60	-	-	4.1
	2.1 材料使用量の削減	F=325以上の鋼材、BCP柱等の採用	5.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:磁器質タイル・ビニル床材、屋外用品:RC40	5.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を使用している。	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	高効率な設備を導入し、CO2を低減	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置なし	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	必要対策量を満たす計画としている。	4.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースの計画	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	5.0	-	-	1.0	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m ² K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m ²
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 -
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m ²
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 0% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m ² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.49 住宅 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 0% 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 0 m 緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²